

教育課程部会委員の杉江和男です。

「教育課程部会におけるこれまでの審議経過(案)」につき、意見を申し上げます。

(案)における「1.学力の確実な定着について」の構成は、○で示された段落の上からもし小見出しを付けると、

育成目標	現状と課題	課題の解決
方法	ICTの意義	教え方
教員と地域の役割	評価	格差是正と
な		

なっています。

ここで段落、の課題として掲げた“言語能力”は、課題を適切に表現していないように感じます。第2段落における“言語能力”は、“情報を読み取って、根拠を明確にして自分の考えを描くこと”を受けており、第3段落における“言語能力”は、“適切に読み取る力”としています。

もともと PISA 科学リテラシーが継続的に世界トップレベルである事は、日本の教育が国際的に優れていることを証明するものでありますが、同時に、“科学で学んだ知識が社会で起きている事象に結びついていない”とする課題も指摘されました。

このような背景からすると、課題は、知識を理解する力とそれを応用する力であり、其れを包括する単語に変更して頂いた方がより良いかと思えます。

次に、段落に例示された“他者に説明する”協働的な学習が児童生徒の理解を深めることはその通り有効な手段ですが、座学によって得られた知識を視覚で確認する、いわゆる“実学”も同様に重要な手段ですので、何処かに入れ込んで頂ければと思います。

なお、6月30日に発表頂きました Rocket 的教育方法が、学校教育の中に包括されるべく部会の審議経過(案)が作成されるのであれば、それはまさしく実学でありますので、上述に拘りませんことをお伝えいたします。